

事例 27 地上レーザスキャナを活用した効率的な森林資源情報の把握（近畿中国森林管理局 岡山森林管理署）



- ・岡山県新見市(にいみし) 用郷山(ようごうやま)国有林
- ・(左) 地上レーザスキャナを活用した収穫調査
- ・(右) 3次元解析画像

森林における地形や立木の樹高等の調査は、従来は人力により行われていましたが、近年はリモートセンシング技術を活用することにより詳細な森林情報を効率的に把握できるようになっています。

近畿中国森林管理局では、岡山森林管理署において、令和3年度に、地上レーザスキャナを活用した収穫調査を行いました。立木の樹高や直径、材積に加えて、地形等の情報を簡便かつ正確に得ることが可能となり、取得にかかる時間は従来よりも大幅に短縮できました。また、従来であれば計測する人によって誤差が生じる可能性がありましたが、誰が計測しても同じ結果を得ることができ再現性が高いという利点もあります。

令和4年度からは地上レーザスキャナを活用した収穫調査を他の森林管理署等でも試行するなど、効率的な調査方法の普及を目指していくこととしています。